

令和5年度 第3回岐阜市立図書館協議会 議事概要

日 時：令和6年2月19日（月）午後1時30分～3時30分

場 所：みんなの森 ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席者：【会場13名】久世均委員（会長）、高橋綾子委員（副会長）、浅井彰子委員、
いずみ凜委員、市村有希子委員、小野寺華委員、門屋伸子委員、
河合美佐子委員、嶋田学委員、神尚喜委員、多田知美委員、
棚村勇夫委員、平賀研也委員

【欠席1名】大野正子委員

（事務局）吉成総合プロデューサー、長尾館長、野々山係長、土谷係長、
富長係長、川瀬係長、塩谷係長

傍聴者：なし

議事概要：

■報告や事務局提案に対する委員からの意見

（1） 2023年度事業実績について

- ・ 市民団体のてにておラジオは、毎月2回、1時間番組を2本ずつ収録しており、収録したデータをラジオ局のFM わっちに持ち込んで放送していただいている。子ども司書のラジオも、開館当初から一緒に行っている特徴的な事業の一つ。
- ・ 藍川北中学校と藍川小学校が令和7年度に義務教育学校になるにあたり、図書室の蔵書を整理しなければならなかった時、図書館職員に学校へ来てもらった。学校図書館の蔵書数には限りがあるため、廃棄処分の基準をどのように定めていくべきか、図書館の職員にアドバイスをもらい、スムーズに書架整理をすることができた。こうした学校との連携制度もあるということのを他の学校にも広め、活用してもらおうとよいと思う。
- ・ 図書館だけでなく、ドリームシアターなどでも若い世代のボランティアを募集し、イベントの受付などを行っている。また、現在はコロナ禍であまり使われていないが、以前対面読書のへやで障がい者の方に新聞を読んだことがあり、そうしたサービスは必要であると感じる。対面読書の部屋だけでなく、Zoomを使用したオンラインで読み聞かせを行うサービスも提供しているため、利用者にはぜひ活用してほしい。
- ・ 盲学校にどのようにアプローチしていくかという問題など、開館から現在に至るまで後回しになってきた取り組みなどについて今後取り組んでいかなければならないのではないかとと思う。また、図書館資料の郷土史というと、データベースの作成やデジタル化などの作業に目が行きがちだが、おとなの夜学で取り扱って

いるような本になる前の情報や対話をどのようにアーカイブしていくかといった緩やかな取り組みを行っていくのもよいのではないか。

- 例えば、子どもラジオや子ども司書養成講座、ブックスタート事業など、今まで行ってきた事業や取り組みは何を目指しているのか、何のためにやっているのかというのを十分議論すべきで、そうした対話を市民の方も含めて行うとよいと思う。
- 岐阜市の人口が 2065 年に 25 万人になるという経済産業省 のデータから、将来的に人口減少が進み、自動的に図書館を利用する人数も減る。そうした環境の変化の過程で、図書館の必要性について問われたときのために、図書館に何を残していくのか、何が強みかという再定義をしていかなければならないと思う。その点において、県の施設にもビジネス支援を専門にした施設があるため、そうしたところとも連携を取っていくとよいのではないか。

また、近年学習観が変化してきており、今までの「知識を伝達する」という考えから、「知識を構成する」という学習観に変わりつつある。そうした中で重要になるのが図書館や博物館である。そうした変化にどのように図書館が対応していくかという部分についても、これから考えていかなければならないと思う。

(2) 第3次岐阜市子どもの読書活動推進計画の進捗状況について

- 教員を含め、子どもたちにこうした図書館があるという認識をしてもらうことが必要だと感じる。先ほどの学校図書室との連携も含め、図書館と学校との関係を密にしていけるとよいと思う。
- 資源に限りがあるため、すべての保育園、小学校などへ出向くことは難しい。図書館で作成している本のお宝帳についても、図書館に来てもらい本を読んでもらうことが目的ではなく、親御さんや子どもたちが本を介して豊かな時間を過ごすためだと思う。そうした豊かな時間を過ごしてもらうためには、図書館としてどのようなことができるのか、を考えていくべきだと思う。
- 子どもが小さい時から、本との出会いや図書館を使うという、利用習慣を作ることが大切だと考える。岐阜市としても「子どもファースト」という言葉を掲げており、市全体として重要課題となっている子どもに対する取り組みは大切である。他市の事例で、子どもたちが自分でカードを発行して、移動図書館車で来た図書館員から本を借りて図書館が読み聞かせをするといった取り組みを行っているところがある。岐阜市でそうした同様の取り組みが可能かという議論はあるが、就学前にそうした本に触れられる機会を増やす取り組みを検討してもよいのではと思う。ただ、保護者の方に対して子どもに本を読んでもらうようお願いをするような形になると、価値観の違いによる問題なども発生するため、自治体がどこまでサービスを広げるかという部分については、十分議論を重ねて取り組みを行っていくべきだと思う。

- ・ 「子どもが本を読むことはどうして大切なのか」 基本的な部分だが、そういった部分について質問されたときにきちんと答えられるようにするべきだと思う。